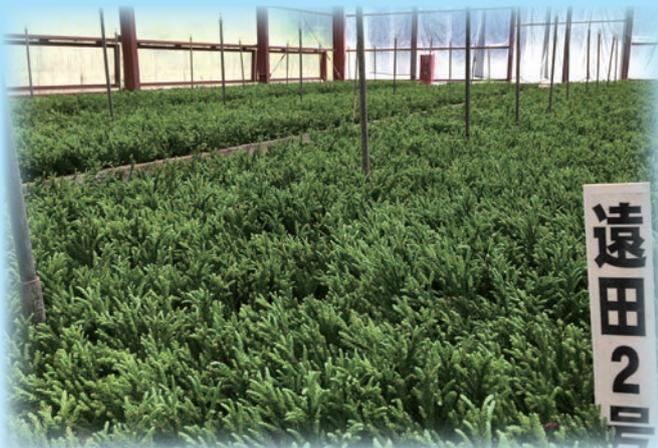


# みやぎの 林業だより



## 表紙写真

(写真上段)

宮城県産スギを原材料とするCLTを活用した商業施設「蔵王パティオ(左)及び物販テーブル(右)

(写真下段)

少花粉スギの育苗施設とスギ精英樹の採種体験の様子

## 目次

【話 題】	◎県南初のCLT建築「蔵王パティオ」完成……………	1
	◎優良な種苗の供給に向けて……………	2
	◎県民の森中央記念館駐車場の増設……………	3
	◎林道「登米東和線」について……………	3
	◎宮城県産原木しいたけPR販売会を開催……………	4
	◎みやぎ森と緑の県民条例基本計画の進捗状況について……………	4～6
	◎「水車づくり体験会」の開催……………	7
	◎早生樹「コウヨウザン」造林にレッツ・チャレンジ……………	7
	◎一貫作業の施業体系化に向けて……………	8
	◎県産スギをツーバイフォー建築に……………	8
	◎石巻管内の海岸防災林の復興に向けて……………	9
	◎「市民参加の新たな森林づくり・秋」植樹祭の開催……………	9
	◎仙南地域における木質バイオマスの動き……………	10
	◎春の山火事にご注意ください！……………	10
	◎森林経営管理法第36条の民間事業者の公表……………	11
	◎一貫作業システム等普及研修会の開催……………	11
【市 況】	◎木材市況の動向・特産市況の動向……………	12

令和2年3月25日  
発行

220号

※みやぎの林業だよりバックナンバーはこちら↓

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ringyo-sk/ringyo-dayori.html>



# 県南初のCLT建築 「蔵王パティオ」完成

県産スギを原材料とするCLT (Cross Laminated Timber) を活用した商業施設が宮城県刈田郡蔵王町に完成しました。県内のCLT建築物は、これまで仙台市周辺で建設が進んでいましたが、県内十例目となるCLT建築が、いよいよ県南地域に初登場です。

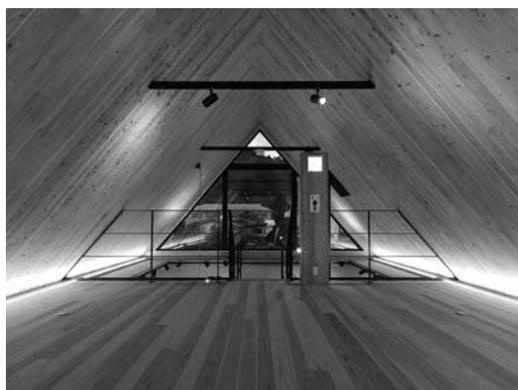


完成した蔵王パティオ

〈建物の概要〉  
用途…商業施設(一部二階建て)  
構造…在来軸組工法+CLT工法  
延床面積…約二百平方メートル

最高高さ…七・五五メートル  
CLT使用量…約六十立方メートル  
〈CLT工法の工夫〉

CLTカルバートトラス工法で蔵王山を連想させる三角屋根を組み、周辺の景観や街並みにも配慮された温かみのあるデザインとなっています。



三角屋根の内観(スペース)

また、在来軸組工法とCLT工法の組み合わせは、CLTのみで構成するパネル工法に比べて構造が簡素となり、コストの抑制に繋がることが期待されています。

今回は設計者、施工者ともにCLT建築を手がけるのが初めてでしたが、在来軸組工法と組み合わせることで、取り組みや



施設内観(パン屋)

すかったとの感想も頂きました。



テナントが入る平屋

施設内には手作りパンの店のほか、地元の新鮮野菜や地場産品を販売する店舗が入り、令和二年二月にオープンしました。  
〈宮城県CLT等普及推進協議会との連携〉

また、当該施設の建設中、宮城県CLT等普及推進協議会主催で工事見学会を二回開催したほか、「みやぎ木構造現場技術

者育成研修」の実施現場ともなりました。

この取組は、工事現場の設計監理や施工を現場代理人と一緒に学ぶことが出来るもので、県内で木造建築に取り組む技術者を育成するため、宮城県CLT等普及推進協議会が特に力を入れています。



議論を交わす現場代理人と研修生

遠刈田温泉中心部に誕生した新たな観光スポット「蔵王パティオ」。温泉街の散策がてら是非お立ち寄りください。

見学を希望される方は株式会社LIP(〇二二―三四九―八七九一)までお問い合わせください。

(林業振興課)

# 優良な種苗の供給に向けて

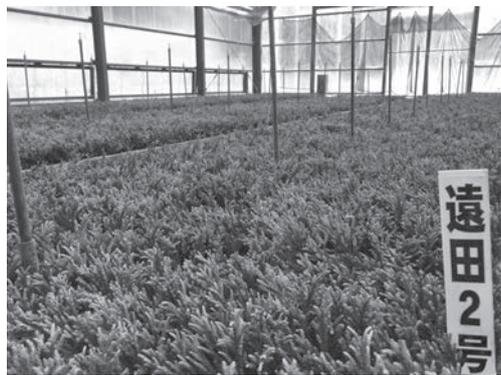
宮城県林業技術総合センターでは、育種種苗を種子で年間約九十割、挿し木苗で年間約八万本生産供給しています。育種種苗とは、収量、品質、病虫害抵抗性等の遺伝的素質を改善した品種の種子や幼苗を指します。今回は、現在、当センターが品種開発や供給体制強化を進めているスギ品種についてご紹介します。

## ●背景

苗木に関する今後の方針として林野庁は平成三十年に「スギ花粉発生源対策推進方針」を改正し、令和十四年度までにスギ苗木の年間生産量の約七割を花粉症対策に資する苗木にすることを目標に定めました。この方針の中で、「花粉症対策に資する苗木」が定義されており、無花粉スギ、少花粉スギ、低花粉スギ、特定母樹の四つとされています。本県でも国の方針に沿って、令和十四年度までにこれらの種苗生産体制を強化することとしています。

## ●少花粉スギ

少花粉スギとは花粉の量が一般のスギの1%以下の品種をいいます。少花粉スギは、精英樹から選ばれていますので、成長や形質などにも優れています。宮城県では、「刈田一号」、「玉造八号」、「宮城三号」、「加美一号」、「遠田二号」の五品種が少花粉品種に認定されています。当センターでは、年間八万本の少花粉品種の挿し木苗(幼苗)を宮城県農林種苗農業協同組合員の苗木生産者へ供給しています。令和二年度には、挿し付け施設を増設する予定としており、令和三年度からは年間十萬本の出荷を目指しています。また、平成二十九年度から少



少花粉スギの増殖施設

花粉品種の種子も生産しています。目的外の品種との交配を避けるため、花粉飛散時期に雌花へ袋をかけて人工交配による種子生産を行っています。作業効率が低く、需要を満たす種子量が得られないなどの課題を抱えていることから、今後は交配成功率を高めるため、ハウス内に母樹を植栽し管理する採種園を造成する予定にしています。

## ●特定母樹とエリートツリー

特定母樹とは、材積、材質、通直性、雄花着花性について優れた性質を持つ品種で、採種園を構成する母樹として開発されます。特定母樹の指定基準は表に示すとおりです。エリートツリーもこれら四つの性質が優れた品種で、第一世代精英樹を親に持った育種集団として開発される第二世代以降の品種を指します。エリートツリーの約八割は特定母樹に指定されています。

当センターでは、次世代の主力種苗として特定母樹の品種開発及び採種木の養成を進めています。現在、表の四項目を満たす候補木を七品種(個体)に絞り込んでおり、雄花着花性の調査を実施しているところです。

令和三年度から特定母樹採種園を造成し、種子の早期供給を目指してまいります。

表 特定母樹の指定基準

項目	指定基準
成長量	概ね10年生から20年生の間における単木材積が、在来の系統の概ね1.5倍以上
材の剛性(ヤング率)	候補木と同様の材分の個体の平均値と比較して優れている
幹の通直性	曲がりがないか、もしくは曲がりがあっても採材に支障がないもの
雄花着花性	候補木周辺の林齢の近い一般的なスギの花粉量の概ね半分以下

## ●おわりに

当センターではご紹介した品種のほか、無花粉スギ品種や第二世代の抵抗性クロマツ品種の開発にも取り組んでいます。単年で収穫を迎える農作物などと異なり、林業は収穫まで数十年を要することから、種苗の良否は最も重要な経営要素の一つです。今後も林業の成長産業化に向けて優良な種苗の開発と生産に取り組んでまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

(林業技術総合センター)

# 県民の森中央記念館 駐車場の増設

昭和四十四年に開園した宮城県民の森は、令和元年で五十年を迎え、年間約二十五万人の来園者が訪れています。

しかし、春のお花見シーズンや秋の紅葉シーズンには、既設の駐車場が満車状態となり、駐車できない車両は、道路沿いに路上駐車されることが多くなりました。

路上駐車は森林散策を行う来園者に対して非常に危険であり、対向車との往来ができません。



令和2年1月に完成した駐車場



完成した駐車場(入り口付近)

事故にも繋がり兼ねません。

そこで、中央記念館に併設するように四十六台分の駐車場を増設しました。車椅子用駐車場を新たに設けるとともに、中央記念館入り口付近も舗装し、バリアフリー化にも配慮しました。

既設駐車場から中央記念館までの遊歩道について、木の根が舗装の下に入り込み、根むくれを引き起こしている状態であったため、来園者の安全に配慮し、舗装の打ち直しを実施しました。

より利用しやすくなった県民の森へ、是非、ご来園ください。  
(自然保護課)

# 林道「登米東和線」 について

林道は、重要な林業基盤として木材の生産や森林の整備など、林業経営に不可欠な車道です。

林道「登米東和線」は、登米市登米町上羽沢地区(県道「志津川登米線」と登米市東和町朝田貫地区(国道三九八号線)を結ぶ最短ルートです。県営事業として平成二十一年度に着手し、令和三年度の完成に向け、現在三工区に分けて開設工事を進めています。

今年度の工事では、工事車両の通行に使用する橋梁の補強資材(覆工板の代替)としてCLT(直交集成板)を活用しています。CLTの敷設は仮設工事のため一時的ですが、県内の建設工事でCLTを工事資材として活用する事例は初めてとなります。

また、周辺森林がFSC認証取得森林であることを配慮して、在来種の播種に限定した法面保護工を採用するなど、様々な取組を行っています。  
当路線の完成により、周辺森

林における主伐・間伐等の経費削減のほか、積極的な森林施業の促進や、北上川沿いの県道が冠水した場合の迂回路としての役割が期待されます。

さらに、林道沿線には、県内唯一となる、NPO法人森林セラピーソサエティにより認定された森林セラピー基地「登米ふれあいの森」があることから、林道終点に近い三陸自動車道三滝堂ICからの入園者増加などが見込まれ、森林の多面的利用の推進上、「森林環境の保全」や「地域経済の発展」といった大きな効果も期待されています。



CLTを活用した床板の試験施工

(登米地域事務所)

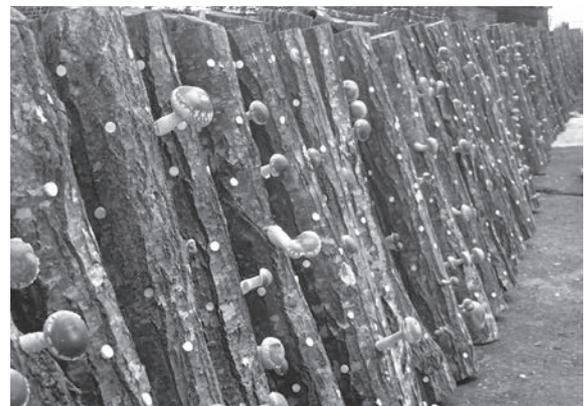
# 宮城県産原木しいたけ PR販売会を開催

令和二年一月二十七日から三十一日及び二月十七日から二十日に、県庁一階玄関ホールにて宮城県産原木しいたけPR販売会を開催しました。

肉厚でうまみたっぷりこの時期おすすめの「原木しいたけ」を県内生産者六団体が日替わりで出展し、乾しいたけのほか、生しいたけ等が販売され、お昼時早々に完売するなど、大変盛況となりました。



販売会の様子



原木しいたけ

県では、今回の「原木しいたけ」に加え、県産各きのこ等をはじめとする、山の幸を広く皆様にPRし、消費拡大を図ることを目指しています。

七月七日の「乾しいたけの日」や十月十五日の「きのこの日」をはじめ、県庁一階玄関ホールのみならず、祭りやスパーなどにおいても、販売会を行ってききました。

なお、県庁一階玄関ホールで行う「きのこ」販売会においては、常連として楽しみにする人も増えてきており、今後とも生産者の方々と協働で県産きのこの魅力や美味しさをPRしてい

きたいと思えます。



生しいたけ



乾しいたけ

(林業振興課)

## みやぎ森と緑の県民条例 基本計画の進捗状況について

「宮城らしい持続可能な未来を創造する森林、林業・木材産業」の実現を目指して、平成三十年度を始期とする「みやぎ森と緑の県民条例基本計画」が平成二十九年度に策定されています。

本計画では、今後十年間の宮城の森林、林業・木材産業が目指す姿を明確化するとともに、計画を実現するために、数値化した目標指標を設定しています。

基本計画の推進体系とともに、「みやぎ森と緑の県民条例」第二十七条に基づき、令和元年度九月定例議会に報告した計画の進捗状況について、次ページに掲載しました。



(林業振興課)

# みやぎ森と緑の県民条例基本計画の推進体系と目標指標

## 1 政策の推進方向体系図

4つの政策

### 政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

- 取組 1 県産木材の生産流通改革
- 取組 2 県産木材の需要創出とシェア拡大
- 取組 3 持続可能な林業経営の推進

### 政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

- 取組 4 資源の循環利用を通じた森林の整備
- 取組 5 多様性に富む健全な森林づくりの推進
- 取組 6 自然災害に強い県土の保全対策

### 政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

- 取組 7 持続的成長をけん引する経営体や担い手の育成
- 取組 8 地域・産業間の連携による地域産業の育成
- 取組 9 新たな森林、林業・木材産業関連技術の開発・改良
- 取組 10 森林、林業・木材産業に対する県民理解の醸成

### 政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

- 取組 11 海岸防災林の再生と特用林産物の復興
- 取組 12 地域資源をフル活用した震災復興と発展

5つの重点プロジェクト

重点プロジェクト1 新たな素材需給システムと木材需要創出

重点プロジェクト2 主伐・再造林による資源の循環利用

重点プロジェクト3 経営能力の優れた経営者の育成、新規就業者の確保

重点プロジェクト4 地域・産業間連携による地域資源の活用

重点プロジェクト5 海岸防災林の活用等による震災の教訓伝承と交流人口の拡大

## 2 基本計画における目標指標と平成30年度実績(進捗状況)

### みやぎ森と緑の県民条例基本計画 目標指標実績(平成30年度)

(令和元年9月 現在一部の実績未確定)

番号	目標指数	単位	参考値			実績 H30	目標 R9
			H27	H28	H29		

#### 政策Ⅰ 林業・木材産業の一層の産業力強化

1	素材生産量 (年間)	千m <sup>3</sup>	537	586	578	<b>614</b>	<b>700</b>
2	林業(木材)産出額 (年間)	億円	44	44	45	<b>48</b>	<b>56</b>
3	木材・木製品出荷額 (年間)	億円	763	792	854	—	<b>980</b>
4	木質バイオマス活用施設導入数 (累計)	基	39	41	55	<b>61</b>	<b>60</b>
5	CLTを用いた建築物の建設棟数 (累計)	棟	1	2	4	<b>8</b>	<b>54</b>
6	森林経営計画の策定率 (累計)	%	28	29	27	<b>28</b>	<b>60</b>

#### 政策Ⅱ 森林の持つ多面的機能のさらなる発揮

7	間伐実施面積 (年間)	ha	2,714	3,661	3,162	—	<b>5,600</b>
8	植栽面積 (年間)	ha	216	238	301	—	<b>400</b>
9	松くい虫被害による枯損木量 (年間)	m <sup>3</sup>	16,523	13,700	14,935	<b>13,215</b>	<b>10,000</b>
10	保安林の指定面積 (累計)	ha	66,813	67,203	67,495	<b>67,779</b>	<b>70,872</b>
11	山地災害危険地区(Aランク)の治山工事着手率 (累計)	%	56 (234/418)	56 (234/418)	45 (258/572)	<b>47</b> (320/676)	<b>65</b>

#### 政策Ⅲ 森林、林業・木材産業を支える地域や人材の育成

12	新規林業就業者数 (年間)	人	67	54	48	<b>48</b>	<b>100</b>
13	森林施業プランナー雇用 林業事業者数 (累計)	事業者	7	7	15	<b>16</b>	<b>28</b>
14	林業(特用林産物)産出額 (年間)	億円	36	36	34	—	<b>46</b>
15	宮城県森林インストラクター 認定者数 (累計)	人	550	578	607	<b>630</b>	<b>900</b>

#### 政策Ⅳ 東日本大震災からの復興と発展

16	海岸防災林(民有林)造成面積 (累計)	ha	162	228	340	<b>558</b>	<b>750</b>
17	原木きのこ出荷制限(自粛)解除 生産者数 (累計)	人	22	31	39	<b>44</b>	<b>66</b>
18	特用林産生産施設のGAP認証 取得数 (累計)	件	1	2	2	<b>3</b>	<b>15</b>

# 「水車づくり体験会」 の開催

十一月二十三日、栗原市一迫長崎地区で、農林中金、県森林組合連合会及び栗駒高原森林組合が共催する「水車づくり体験会」が開催されました。

一般公募で仙台市などから三十名の参加があり、地元「一迫林業研究会」の指導の下、三班体制で組立作業に取り組みました。親子や老若男女からなるグループ構成でしたが、当林研が長年取り組んできた豊富なノウハウにより、参加者全員との交流を深めながら楽しく作業が進みました。スギ材の切断から組立て、そして水路への設置まで、皆で力を合わせた結果、周囲景観にもマッチした水車がゆっくりとカタ・コトと回り始め、山と里とのつながりを実感してもらいました。

なお、昼食は地元産野菜のカレーやサラダを堪能いただいたほか、栗原産の苔による、苔玉づくりを体験してもらったりなど、手作りのおもてなしに、好評をいただきました。



完成した水車



水車づくりの様子

(栗原地域事務所)

# 早生樹「コウヨウザン」 造林にレッツ・チャレンジ

近年、再造林や育林の低コスト化に向けた取組として、西日本を中心に初期成長が早く、下刈りの省力化などが期待される、「早生樹」の試験植栽が進められています。しかし、宮城県では、早生樹の造林事例が少ないため、寒冷で降雪の多い地域で早生樹が生育するかは分かっていません。

そこで、大崎地域への適合性を検討するため、地元林業事業体の協力の下、早生樹として期待される「コウヨウザン」の植栽試験を開始しました。

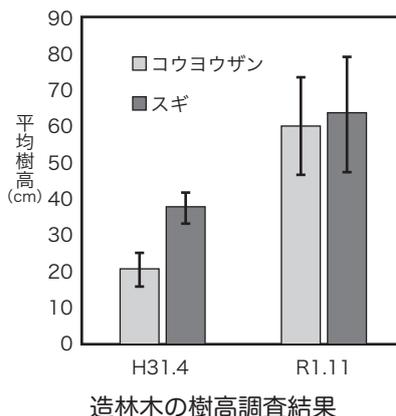
通常の造林樹種と比較するため、同じ場所にスギを造林した調査地を設定し、造林直後の苗木の調査と造林木の成長が停止した降雪前に初年度の成長量調査を実施しました。

その結果、「スギ」は平均樹高が約一・六倍、根元径が約二・三倍に成長したのに対し、「コウヨウザン」は平均樹高が約三倍、根元径が約二・八倍の成長となり、スギに比べて初期成長が非常に高い結果となりました。



今年度造林したコウヨウザン

(北部地方振興事務所)



かし、コウヨウザンは元々温暖な気候に適した樹種であることから、雪の多い大崎地域の冬を乗り越えることができるのか、そしてどのように成長するのか、今後も継続した成長量調査と降雪の影響の確認を続け、早生樹コウヨウザン導入の可能性を検討していきたいと考えています。

# 一貫作業の 施業体系化に向けて

林業技術総合センター普及指導チームでは、県内の森林資源が充実し、主伐による県産材の再造林を推進するため、平成二十八年度から、「伐採から植栽までの一貫作業」の普及に取り組んでいます。

今回は、コンテナ苗の特性を生かした一貫作業の施業体系化に取り組んでいる津山町森林組合の令和元年度の実施状況を紹



現地検討会の様子

介します。

同組合では、森林所有者からの主伐要請に対応するとともに、伐採後の造林を確実に実行するため、平成二十九年度から秋伐採・秋造林の導入の可能性を検討してきました。

今年度は、隣接する林分において、春伐採・秋造林と秋伐採・秋造林を比較検討しながら、①コンテナ苗の活用、②主伐作業の効率化を図るための事業体連携の強化、③森林経営計画の策定推進による認証森林の拡大、④認証材の協定販売による安定的な販路確保などの積極的な取組を推進することで、森林組合としての一貫作業の体系化を図っていくこととなりました。

また、実施内容を林業技術総合センターと連携して取りまとめ、十二月に県が開催した現地検討会において、施業状況や一貫作業の体系化について事例紹介を行いました。

普及指導チームでは、一貫作業システムの定着化に向け、関係機関や事業体と連携しながら積極的に取り組んでいくこととしています。

(林業技術総合センター)

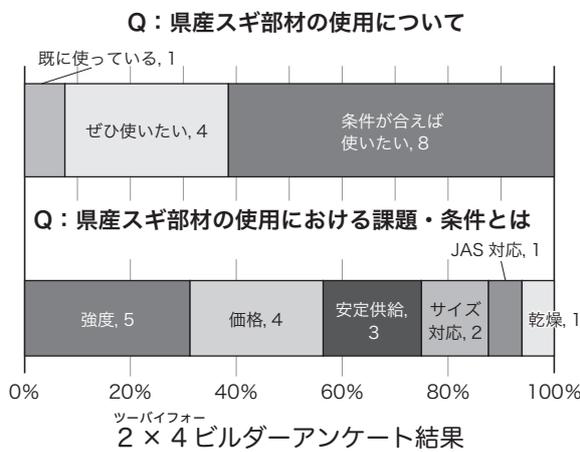
普及指導チーム)

# 県産スギを ツーバイフォー建築に

本県のツーバイフォー建築は、住宅で比較的高いシェアがあり、また中・大規模建物へも利用が進められています。

ツーバイフォー工法は、枠組材に合板を打ち付けた壁・床パネルにより構成され、この枠組材はそのほとんどが北米からの輸入材が使われています。

ツーバイフォー建築に県産



スギ材を利用できないか、日本ツーバイフォー協会東北支部の協力を得ながら、ビルダーにアンケートを実施したところ、利用したいとする意向は多く、課題とされたのは強度性能、価格、安定供給などでした。

そこで、県産スギ丸太から2インチ×4インチ断面のツーバイフォー材二六〇枚を製造し、日本農林規格(JAS)に基づく目視等級区分と強度試験を行いました。

目視等級区分では九十三割がJAS乙種コンストラクションに規定され、枠組材の縦枠で使うことができます。また、これからランダムに抽出し、曲げ強度試験を行ったところ、全ての試験体が基準強度以上となり、縦枠として十分な強度性能を有していました。

今後は、2インチ×4インチだけでなく2インチ×6インチ材を製造し、同様に性能調査を進めることでツーバイフォー建築への県産材利用につなげていきたいと考えています。

(林業技術総合センター)

地域支援部)

# 石巻管内の海岸防災 林の復興に向けて

東日本大震災で被災した海岸防災林の復旧がいよいよ完成間近となってきました。防災機能の回復及び向上を図るため、管内では、「復旧・復興ロードマップ」に基づき、六地区で防災林復旧事業を進めてきました。

復旧にあたっては、まず盛土を行い生育基盤を確保した上で抵抗性クロマツの植栽を行いました。また、強風から苗木を守ることに より 初期成長を促進し、成林しやすい環境を確保するため、植栽区域の外周や内部に県産スギ間伐材を使用した防



東松島市「大曲浜」地区

風柵を設置しています。

東松島市大曲浜・洲崎地区では、平成二十七年度から「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」により、山形県東根市みどりの少年団・セイホク(株)など、企業や団体による抵抗性クロマツの植栽(約二ヶ所)や下刈作業が毎年実施されており、海岸防災林の復興の一翼を担っています。

石巻管内の海岸防災林は、これまで、石巻市十八成浜・白浜・細田、東松島市大曲浜地区の四カ所の復旧が完了しており、残る石巻市大川地区と、東松島市の洲崎地区についても令和二年度中に完成します。防災林の復興はもうすぐです。



東根市みどりの少年団植栽箇所

(東部地方振興事務所)

# 「市民参加の新たな森林 づくり・秋」植樹祭の開催

十一月六日に、FSC森林認証を取得している登米市東和町の米川生産森林組合所有林で、県と登米市との共催により、令和元年度「市民参加の新たな森林づくり・秋」植樹祭を開催しました。

当日は爽やかな秋の青空の下、林業普及指導員による植樹方法の説明の後、参加者全員でヤマザクラほか広葉樹の苗木六百本を植樹しました。また、登米市立米川小学校の一年生から三年生までの児童はドングリ種まきを行いました。

植樹作業終了後は、会場を米川小学校体育館に移して、木育を兼ねた木工工作教室を開催し、低学年児童を含めた全員が無事に森林認証木材によるマガジンラックを完成させることができました。

例年五月に開催される「春」植樹祭と併せて、今後も県、登米市、地元森林組合との連携により「市民参加の新たな森づくり」を盛り上げていきます。



記念撮影の様子



広葉樹の植樹

(登米地域事務所)

### 仙南地域における 木質バイオオマスの動き

再生可能エネルギー活用  
の機運の高まりから木質バイオ  
オマス利用施設が全国的に建設される  
中、当事務所管内においても川  
崎町に一基、柴田町に二基の発  
電施設が建設され稼働中です。

また、七ヶ宿町では木質バイ  
オマスボイラーを熱源とした入  
浴施設が整備されました。

さらに、今後も角田市などで  
発電施設の建設が予定されてい  
ます。

このような現状を受けて、当  
事務所では木質バイオオマスの需  
給間協定による安定的・継続的  
な需給ネットワークの形成を目  
指しています。

その情報交換の場として、事  
務所主催で年二回開催している  
「仙南地域素材生産・流通連絡  
会議」があります。

この会議は、素材生産事業  
者・森林組合・製材業者・チッ  
プ製造業者等を参集範囲とし  
て、各事業者間で原木等の需給  
実績や需給計画、今後の展開に  
関する情報の交換と共有を図ろ  
うとするものです。

木質バイオオマス利用推進のた  
めには、中長期的な森林整備計  
画と安定的な林地残材等の供給  
及び安価な木質燃料生産・供給  
が必要であり、原料の仕入れか  
ら運搬まで採算性を考慮する必  
要があることから、当事務所  
は、今後も地域の現状を把握し  
ながら引き続き支援を行ってま  
いります。



木質バイオオマス発電施設  
柴田町



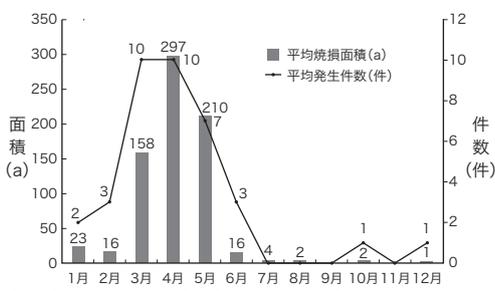
木質バイオオマスボイラー施設  
七ヶ宿町

(大河原地方振興事務所)

### 春の山火事に ご注意ください！

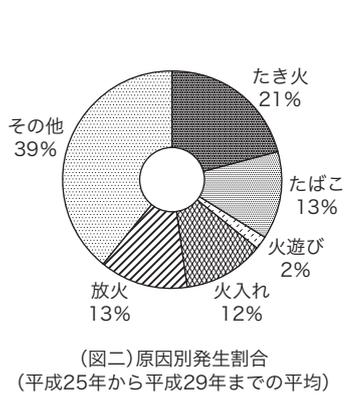
県では、三月一日から五月  
三十一日まで山火事予防運動を  
行っています。例年、春先は雨  
が少なく空気が乾燥し、一年の  
うちで最も山火事が発生しやす  
い時期となります。平成二十五  
年から五年間の平均では、三月  
から五月にかけて二十七件の山  
火事が発生し、約七分の三の森林が  
焼損しています(図一)。

判明している原因では、例  
年、たき火によるものが最も多  
く(図二)、僅かな不注意から発  
生しているものと考えられます。  
枯れ草などのある場所では



(図一) 月別発生状況(平成25年から平成29年までの平均)

たき火を  
しないこ  
と、たき  
火など、  
火気使用  
中はその  
場を離れ  
ず、完全  
に消火し  
たことを  
確認する  
こと、強  
風時・乾



(図二) 原因別発生割合  
(平成25年から平成29年までの平均)

乾燥時にはたき火や火入れをしな  
いこと、たばこは指定された場  
所で吸い、吸いながら投げ捨て  
ないことなど、一人一人が気を  
つけることで山火事を防ぐこと  
ができます。山火事はいったん  
発生すると消火が難しく、広範  
囲に及ぶこともあるほか、失わ  
れた森林の機能の回復には長い  
年月がかかります。



宮城の美しい森林を守るた  
め、火の取扱いには十分気をつ  
けていただくよう、ご協力をお  
願いします。  
(森林整備課)

# 森林経営管理法 第三十六条の 民間事業者の公表

県では、森林経営管理法第三十六条に基づき民間事業者の公表を行い、今年度は二十九の民間事業者が公表されました。今年度の公表までの流れについては、左表のとおりです。

令和元年度森林経営管理法第36条の 民間事業者の公表概要	
<b>(1) 公募</b>	
時期	令和元年6月3日から7月3日まで
公募期間	30日以上
公募方法	インターネット(県HP)による募集
<b>(2) 審査・推薦の受付</b>	
適合基準による審査	
市町村からの推薦の受付	
<b>(3) 公表</b>	
公表時期	第1回 令和元年 9月30日 第2回 令和元年 12月25日
公表方法	インターネット(県HP)
有効期間	5年間

公表された民間事業者は、素材生産の生産性や生産量の増加、再造林の実施、雇用管理の改善等に関する一定の基準を満たす民間事業者として、市町村が定める経営管理実施権の設定を受けることが可能となります。

## 令和元年度公表民間事業者

### 第一回公表(九月三十日)

白石蔵王森林組合、川崎町森林組合、坂元植林合資会社、宮城中央森林組合、宮城十條林産株式会社、守屋木材株式会社、北星林業株式会社、有限会社鎌田林業土木、株式会社くりこまくんえん、石巻地区森林組合、登米町森林組合、東和町森林組合、株式会社小山材木店(十三団体)

### 第二回公表(十二月二十五日)

仙南中央森林組合、丸森町森林組合、新誠木材株式会社、黒川森林組合、大崎森林組合、鬼首振興株式会社、株式会社松山産業、栗駒高原森林組合、津山町森林組合、米川生産森林組合、株式会社里山林農元気村、気仙沼市森林組合、本吉町森林組合、南三陸森林組合、株式会社佐久、特定非営利活動法人リアスの森応援隊(十六団体)

来年度の公募については、令和二年四月に宮城県水産林政部林業振興課のホームページに掲載する予定です。

(林業振興課)

## 一貫作業システム等

### 普及研修会の開催

二月十九日に仙台市の宮城木材文化ホールにおいて、宮城南部流域森林・林業活性化センター仙台支部との共催により、再造林の推進と森林施業のコスト低減に向けた取組を推進するため、「一貫作業システム等普及研修会」を開催しました。

研修会には、活性化センター仙台支部の会員のほか、管内の林業事業者や関係機関等から約二十名の参加があり、仙台管内の林業事業者が、昨年度から大和町で実施している温暖化防止森林更新推進事業(一貫作業)の取組状況等について説明を行いました。

また、林業の成長産業化実現



研修会の様子

のためには、森林施業の効率化や省力化が必須であることから、林業におけるICTの活用について、林業技術総合センターから紹介があったほか、国有林における取組や管内の森林経営管理制度の進捗状況などについて、情報提供を行いました。

参加者からは、「植栽後の森林管理までをセットで考えないと森林所有者に働きかけづらい。」との意見がある一方、「もっと補助事業の予算があれば、再造林を進めることは可能。」との意見がありました。

森林経営管理制度については、仙台管内の市町村数が多いことから、市町村業務の受け皿として、「協議会等の設置が必要ではないか」との意見がありました。

労働力の確保が大きな課題となる中、林業事業者等の安定的な経営に向け、新しい技術の導入や事業者間の連携は不可欠なものと思われることから、今後事業者への情報提供や連携強化を図られるよう、活性化センター仙台支部を支援していきたいと思えます。

(仙台地方振興事務所)

## 木材市況の動向

表1 各共販所別木材市況(令和元年12月)

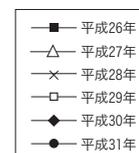
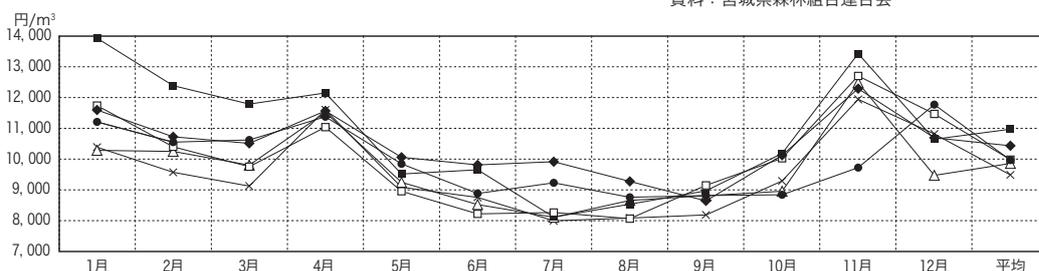
樹種	材長 m	径級 cm	価格(中値 単位:円/m <sup>3</sup> )					
			仙南	仙北	東和	大衡	津山	石巻
スギ	3.00	14~16	—	—	10,080	—	—	—
		16~30	—	—	—	—	—	—
		20~30	11,520	—	—	10,800	10,080	—
	4.00	10~13直曲	9,000	10,080	10,080	9,000	10,080	—
		14~18	9,500	10,080	10,080	9,000	10,080	—
		20~28	—	10,080	10,080	—	—	—
		30上	—	10,080	10,080	—	—	—
	3.65 ~4.00	20~28	10,800	—	—	10,800	10,080	—
		30上	11,520	—	—	10,800	10,080	—
1.95	16上	6,120	6,120	6,120	6,120	6,120	—	

資料:宮城県森林組合連合会

### 概況

#### 素材動向

・素材価格は前年同時期より  
下降の傾向にある。



素材:県森連共販所  
市況(平均価格)

図1 素材価格の動き

## 特産市況の動向

表2 生しいたけ価格の市況

単位:円/kg

年次	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
平成27年	1,144	1,055	984	916	886	766	852	948	960	970	962	1,038
平成28年	1,037	1,025	972	946	965	955	961	977	1,018	1,014	998	1,054
平成29年	1,034	945	861	862	890	775	863	851	884	980	971	1,034
平成30年	1,160	958	947	795	958	851	836	913	987	968	929	1,009
平成31年	1,064	993	895	932	887	888	901	989	949	908	953	998
令和2年	999											

資料:仙台中央卸売市場

### 概況

・平成24年に原木しいたけ(露地)が出荷制限指示を受けたこと等に伴い、価格は大きく下落したが、全国的な品薄状況を背景に平成26年次から平成30年次の平均単価は4年連続で、900円代と、震災前の平均価格を上回っている。  
・なお、平成30年次の県産生しいたけの入荷量は214 t(前年比63 t減)であり、市場占有率は44%(前年比10ポイント減)であった。

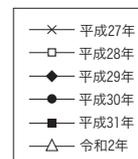
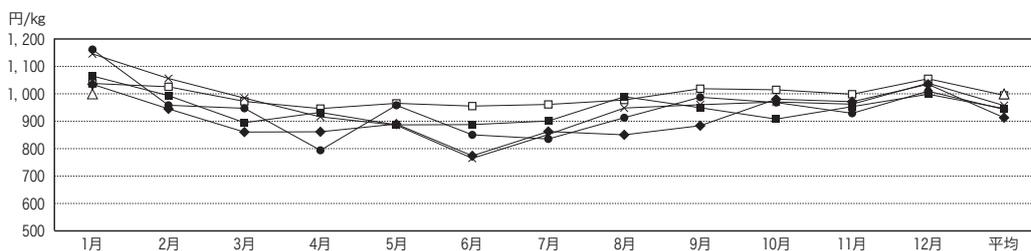


図2 生しいたけ価格の動向

表3 宮城県の新設住宅着工戸数(令和元年12月)

項目	総数	木造戸数	非木造戸数	木造率(%)
令和元年12月(戸)	1,275	895	380	70.2
平成30年12月(戸)	1,910	1,383	527	72.4
前年同月比(%)	66.8	64.7	72.1	—
平成31年1月~令和元年12月(戸)	17,621	12,038	5,583	68.3
平成30年1月~31年12月(戸)	19,646	13,942	5,704	71.0
前年同期比(%)	89.7	86.3	97.9	—

資料:住宅着工統計

### 概況

#### 新設住宅着工戸数

・12月の新設住宅着工戸数及び木造戸数は前年を下回っている。木造率は減少した。  
・累計比は前年を下回っており、木造戸数及び木造率も前年を下回っている。

国産材(生産販売)、木材チップ生産  
製材業、伐出造林請負



## 宮城十條林産株式会社

代表取締役 亀山 武弘

本社 〒980-0871  
仙台市青葉区八幡3丁目2番7号  
☎仙台(022)261-2151(代) FAX(022)261-2150

営業所 気仙沼・栗駒・飯野川・大和・白石・郡山・岩出山  
工場 気仙沼・栗駒・白石・岩出山  
関連会社 宮十運輸株式会社・宮十造園土木株式会社  
株式会社宮城環境保全研究所



## 坂元植林合資会社 株式会社サカモト 坂元植林の家

サカモトグループ



地域との共生  
「めぐりめぐみ」をテーマに  
私たちは自然を愛し、  
大切に育てていきます。

〒989-1601 宮城県柴田郡柴田町船岡中央1-9-12  
Tel:0224-58-1100 Fax:0224-58-2252  
www.web-sakamoto.co.jp

## 宮城県木材チップ協同組合

代表理事 亀山 征弘  
専務理事 亀山 武弘  
理事 小澤 幸三  
理事 石田 竜也  
監事 阿部 貢夫  
監事 一條 英夫

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151 FAX 022(261)2150

## 宮城県木材チップ工業会

会長 奥津 文男  
副会長 亀山 征弘  
副会長 永井 政雄  
副会長 米澤 光秀  
ほか理事一同

〒980-0871 仙台市青葉区八幡三丁目2番7号  
電話 022(261)2151

緑をはぐくみ水をつくる  
奥地水源地域の森林整備

## 水源林造成事業

### 宮城県水源林造林協議会

〒980-0011  
仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
宮城県森林組合会館内  
TEL (022) 266-7121

## 一般財団法人 佐々君治山報恩会

代表理事 遊佐 勘左衛門  
事務局 長 佐々木 治樹

〒989-6165 大崎市古川十日町4番14号  
TEL (0229) 22-1281  
FAX (0229) 22-1281  
E-mail: sasakimi@proof.ocn.ne.jp

次代へ進むメーカーと共に技術で、商品で、ニーズに応えます。  
製材機械・木工機械・林業機械・プレカット・集成材プラント・乾燥機は

## 筒井鋼機株式会社

信頼の高い筒井鋼機株式会社へ

本社 仙台市青葉区花京院二丁目2-22 TEL022-224-1261・FAX022-265-9231  
盛岡営業所 盛岡市青山四丁目47-32 TEL019-641-7713・FAX019-641-7807

E-mail info@tutuiokoki.co.jp  
URL http://www.tutuiokoki.co.jp

### 見て触れて 住んでしみじみ 木の住まい 宮城県木材協同組合

理事長 千葉 基

## For Woody Life

〒981-0908 宮城県仙台市青葉区東照宮1-8-8  
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936  
E-mail:miyagi\_wood@waltz.ocn.ne.jp

## みやぎ材利用センター

みやぎ材利用センター本部 TEL.022-233-2883  
(宮城県木材協同組合)

利用センター TEL.022-239-2661  
総合窓口

優良みやぎ材、県産材を全てお世話致します。ちょっとした疑問から注文まで全てお任せ。ご要望の工期に併せてご提供致します。

建築資材部 (株)仙台木材市場 TEL.022-239-2011

土木資材部 宮城県森林組合連合会 TEL.022-345-2205

合板資材部 石巻地区森林組合 TEL.0225-93-1711

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-8-8  
TEL : 022-233-2883 FAX : 022-275-4936

森林は大切な資源です  
森林整備を通して  
美しい森林を未来に伝えます

 一般社団法人 宮城県林業公社  
(森林整備法人)

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL (022)275-9171 FAX (022)275-9172  
<http://www.miyagi-rinkou.sakura.ne.jp>

### 令和元年「緑の募金」実績

# 44,814,562円

ご協力ありがとうございました。

### 令和2年 「緑の募金」

## 目標45,000,000円

春の強調月間 4月1日～ 5月31日

秋の強調月間 9月1日～10月31日

# 緑の募金

にご協力ください!

令和2年緑の募金運動スローガン **緑の募金で進めよう SDGs ~森林を守る 森林を活かす~**

### 令和2年 緑化促進事業

-  みどり環境促進事業
-  ふれあいの森づくり事業
-  ふるさとの樹木保存事業
-  みんなの森造成事業
-  みんなの街づくり事業
-  海岸防災林再生事業
-  次代へ繋げる海岸防災林の保育を担うボランティア養成・啓発事業



 木育活動支援事業  
 宮城県緑化運動70周年記念緑化事業

詳しくはHP(<http://miyagiryokusui.com>)または下記事務局までお問い合わせください。



## 公益社団法人宮城県緑化推進委員会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17 宮城県仙台合同庁舎10階  
TEL.022-301-7501 FAX.022-301-7502

「公益信託 農林中金森林再生基金」(農中森力基金)等を通じ、森林の公益性発揮を  
目指した活動を積極的に支援していきます。

## 農林中央金庫 仙台支店

〒980-0011 仙台市青葉区上杉一丁目2番16号(JAビル宮城内) ☎022(711)7531(代)

私たちは森林づくりのプロフェッショナルです。ご相談はお近くの森林組合に！

## JForest 宮城県森林組合連合会

森林組合系統の新しいロゴマークです

仙台市青葉区上杉2丁目4-46  
TEL022-225-5991 FAX022-225-5994

### ■優良みやぎ材の原木は

仙南木材センター 0224-65-2166 東和木材センター 0220-45-2240  
大衡総合センター 022-345-2205 津山木材センター 0225-68-3038  
岩出山木材センター 0229-72-1877

### ■樹木の枝や根の有効利用は ウッドリサイクルセンター 022-345-6041

花粉症対策スギ挿木コンテナ苗木、海岸防災林用抵抗性クロマツ苗木をはじめ、  
林業用及び森林復旧用各種苗木のご用命・ご相談承ります。

## 宮城県農林種苗農業協同組合

〒980-0011 仙台市青葉区上杉二丁目4番46号  
TEL (022) 222-3661 FAX (022) 222-3688

## 林業の<sup>今</sup>を伝える月刊誌 令和2年度の購読申込受付開始!!



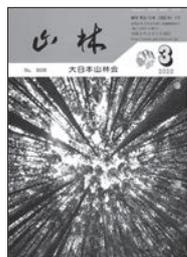
**GR 現代林業**

A5判 80頁  
年間購読料 5,400円(送料込み)



**林業新知識**

B5判 24頁  
年間購読料 3,000円(送料込み)



**山林**

A5判 66頁  
年間購読料 3,500円(送料込み)

図書の申込、問い合わせは

### 宮城県林業振興協会

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
宮城県仙台合同庁舎10階

**TEL 022-301-7501**  
**FAX 022-301-7502**

発行 宮城県林業振興協会 仙台市青葉区堤通雨宮町四番十七号  
編集協力 宮城県農林水産部林業振興課  
☎022-301-7501